

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101383		
法人名	有限会社 コナン		
事業所名	グループホーム 大森の家 (あさがお)		
所在地	松江市宍道町上来待 204-4		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.jp">https://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモプレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成27年12月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

田園に囲まれ自然豊かで季節の移り変わりを感じられる落ち着いた環境の中にある。職員間のチームワークもよく利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、自分らしい生活が出来るよう個別ケアを心掛けている。協力医療機関との連携体制も整っており看護師による健康管理も日々行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近くに町の主要な施設が集まっていることもあり、以前から公民館等との交流も盛んに行われており、地域とも良い関係にある。同じ場所に診療所があり、協力医として往診を含めた緊急時の支援体制は、家族関係者の安心に繋がっていると共に、会議への出席や終末ケアに対して指導を受けるなど、関係も深まりつつあり、地域との連携の良さが強く感じられた。広く町を見下ろす高台にあり、田園風景を眺められる自然環境の良い場所にある反面、近所には民家が少なく、災害時などの協力は受けにくい為、以前より築いてきた良好な地域関係を基に、さまざまな場面での支援体制が築けるように繋がりを広げていただきたい。利用者は重度化し介護量は増すばかりだが、2つのグループホームの職員は、それぞれのユニットリーダーを中心にチームワーク良くまとまっており、好感が持てた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿って、職員全員が利用者一人ひとりに合ったケアが出来るように毎朝ミーティングを行い実践できるよう意識している。	平成22年に管理者が変わってから現在の理念を継続している。新しい職員にはケアの思いとか関わり方等をそれぞれのユニットリーダーから伝えている。普段でもミーティングなどで話し共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事に参加したり施設や地区の避難訓練にお互いに参加し交流を図っている。	地域の交流施設が近いこともあり、行事への参加は多い。歳末チャリティーや餅つき、しめ縄づくりなど多くの行事に出向いている。窓ふきやお茶、3B体操や音楽療法などのボランティア交流も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解に繋がるように、地域行事には積極的に参加し地域の人と触れ合う機会を作って理解に繋がるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で状況報告や意見交換し、そこでの意見を業務に活かすようにしている。	市や包括の職員、民生委員などの地域関係者、協力病院の医師に毎回多くの家族関係者の参加があり定期に開催。入所者の状況や施設の取り組みなどを紹介することで意見交換につなげている。	家族関係者など多くの参加者がある為、内容の充実を図ることで、会議の意義をより高めていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や連絡会に参加したり、運営推進会議での報告や相談をしている。	運営推進会議には毎回参加があり意見を得ている。介護保険の手続き等で相談をする機会には直接出向いて行っている。生保の関係で福祉事務所からの訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に社内研修を行い職員の意識向上と理解に努めている。日頃のケアを考え具体的に何が身体拘束なのかを理解するようにしている。	虐待を含め研修を実施している。スピーチロックなど具体例を上げてその都度説明するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり定期的に社内研修を行い、職員の意識向上と理解を深め、職員間でもお互い意識し合い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加している。必要性があれば関係者と話し合い活用できるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の考え方や取り組み、退去時を含めた事業所の対応可能な範囲について、重要事項説明書に基づき説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望は面会時に出来るだけ話を聞くようにしている。運営推進会議でも報告、意見を聞き運営に活かせるようにしている。	運営推進会議に毎回多くの家族の参加があるためその場で意見を得るようにしている。面会時には行事等の写真を渡したり、毎月1回担当より日頃の様子を伝えるお便り送ったりと機会を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のミーティング時に意見や提案を聞いている。個別の意見についても随意時話を聞き職場の環境作りに努めている。	直接言いにくいことはユニットリーダーを経て意見が上がってくることもあるが、管理者はいつでも話を聞く機会を作るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給時や資格取得時において個々の実績や職責に応じた待遇になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるよう研修の案内をしたり、職員のレベルに応じた研修が受けられる機会を確保している。未経験者には働きながら介護職員初任者研修が受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と情報交換する機会を持ち今後の取り組みの参考にしている。グループホーム部会の研修に参加し学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の本人との面談時に本人がおかれている状況や身体状態を把握し、困っていることや不安なこと、要望などを聞き本人が安心できる馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時に今までの経緯や状況、家族の思い、要望などを聞き今後のよりよい支援に向けて話し合い信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いの中で必要としている支援を見極め、状況をみながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることしたいことを一緒にする場面を増やし表情よく暮らせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回は面会に来てもらうようにしている。面会時や毎月の様子を知らせるお便りを通じて状況を伝え意見を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会時にはいつでもまた来てもらえるような声掛けや雰囲気づくりを心掛けている。手紙や電話のやり取りも支援するように努めている。	地域での関わりを続ける為、できるだけ地域の公民館の行事には参加するようにして顔見知りの人に会う機会としている。地域の宮への参拝や温泉への希望もあり、職員同伴で出かけるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろんな場面で利用者同士の関わりが上手くでき、一緒に生活する上でお互いが支え合える気持ちになるような関係づくりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談や支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族に生活にたいする意向を聞き把握するようにしている。本人からの聞き取りが難しい時は普段の関わりの中で意向を感じとるようにしている。	介護度4, 5の方が多く発語も少なくなってきたため、表情を見て感じ取るようにしている。家族の意向は会議や面会時に声がけして聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報提供や本人家族との面談時の聞き取りからこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りの時間で1人ひとりの状態を職員間で確認し現状把握しに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族にケアについての説明や意見を聞く機会を作り、チームで話し合いながら介護計画を作成している。	居室担当を中心にモニタリングを行っている。担当者会議はそのためだけに来ってもらうのではなく、家族来園時に合わせて実施するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の実践はカルテで確認できるようにしている。気づきや工夫は個別ノートに記入し職員間で毎日確認し本人の日々の様子や変化を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて柔軟な支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティアや地区行事に参加する機会を作り楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所後も本人家族の意向に沿うようにしている。月に1度の受診や往診で密に連携を取っている。	事業所の協力医は定期に往診。夜間緊急時や終末の際の支援体制も確立している。以前からかかりつけ医を続けている方には受診の付き添いも行い適切な指示が仰げるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して、24時間常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時はかかりつけ医と病院、施設との間で情報交換している。入院中は病院に行き状態、経過などを確認するようにしている。退院時は今後の生活について相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、施設としての方針を説明し家族の意向も確認しているが、重度化や終末期に向けてはその都度、話し合いの機会をつくり、方針を本人家族、かかりつけ医、施設間で共有し支援している。	協力医の支援体制もできているため、重度化に向かい家族関係者との話し合いの機会を持つことで進めるようにしている。以前から看取りを行ってきており、今後に於いても施設としてできる限り検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を実施し救急法やAEDの使い方を確認している。急変時の初期対応については看護師の指示に従っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防防災訓練を行い、地域の方にも参加してもらう機会を作っている。消防署立ち合いで避難訓練や防災教育等を実施している。	水害や山崩れなどの自然災害には合いにくい場所にあるが、回りに民家がなく火災時などの支援体制を築く必要性から、消防団など地域関係者の参加を経て訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについては社内研修をしている。人格やプライバシーを損ねないよう不適切な時は注意し合うようにしている。	個人情報や言葉使いなどの研修を実施している。個人の写真も部屋の中に貼るなどの配慮を行い、誘導などの場面での声かけには注意するようにしている。不適切な場合はその場で注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを多くし、できるだけ本人の希望や思いを引出せるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や希望によりその人のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時には整容し洋服選びも自分でできる人には希望を聞いて対応している。2か月に1回の移動理美容車利用時には好みの髪型になるように希望を聞いて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲で野菜の皮むきや盛り付け、後片づけなどを職員と一緒にしている。	重度な方が多く、その人ができる作業に参加してもらっている。食事介助者が多い為職員と一緒にという形にはなりにくい、高齢で時間のかかる方、時間をずらす必要のある方など個々に合わせて対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は「1日表」に記入しすぐに確認できるようにしている。特に状態悪化時や摂取量が少なくなっている方には気をつけ、食事の形態やトロミ、補食等で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは利用者の状態に合わせて介助や声掛けで行い、歯磨きや嗽の出来ない方には口腔ケア用品などで口腔内を清潔に保つようにしている。また入れ歯洗浄剤で除菌するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導している。定時のトイレ誘導以外にも様子観察しできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	9割の方が紙パンツやオムツ使用者だができるだけトイレでの排泄の機会を持つようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜類や繊維質の食材を多く取り入れ水分もしっかり摂ってもらうようにしている。できるだけ離床を促し身体を使うレクリエーションや役割に参加できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日設け、全員が週2回以上入浴できるようにしている。午前と午後の時間帯にその方の気分や状態で希望を聞くようにしている。	家庭用のユニットバスのため浴槽に入ることが難しい方があり、その場合はシャワー浴や清拭対応としている。できるだけ中でくつろげるように配慮し、入浴回数は利用者の意向に添うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない時は話をしたりして日中休んでもらったり状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の薬剤情報をカルテで確認できるようにしている。臨時薬処方や服薬の変更時は業務日誌や申し送りノートに書き症状の変化あれば記録し看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等の情報から個々の楽しみを見つけ、編み物、将棋などを行っている。出来る役割をみつけ職員と一緒に楽しむことができるよう関わっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時期はできるだけ戸外に出掛ける機会を多く持つようにしている。また希望があれば臨機応変に買い物などに出掛けている。	公民館行事にはできるだけ参加するようにして外出の機会としているが、参加できる方は限られるため、中庭で日光浴やお茶する機会を増やすようにしている。ジャンボタクシー利用で遠方に出かける機会には1対1の対応とし楽しめるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し買いものの支払いができる人には使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば施設の電話を使用してもらっている。手紙やはがきが届けば返事を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保ち心地よく過ごせるようにしている。季節ごとの花を生けたり貼り絵をしたり工夫している。	街を見下ろす高台にあり、食堂や居間、居室からも外の景色を眺めることができ、草木や畑の作物などからも季節感を味わうことができる。廊下も広く車いすなどの移動もスムーズにできるゆったりとした空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは畳のスペースもあり、新聞を読んだり、気の合う人同士で話をしたり、好きなテレビ番組を観たりするなど気兼ねなく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、居室には家で使いためのものや馴染みのものを置いてもらう事を勧めており、本人が安心して過ごせるようにしている。	家での使い慣れた物の持ち込みを勧めており、テレビ、座椅子、好きな写真などが置かれている。ベッドや家具など動線よく配置することで、居心地良くなるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には目印になるものを付けたら施設内の移動は安全に自分の行きたい所に行けるよう見守りや介助している。		